

ボナンタゴン

アピカホールから
あなたに

Vol.63

2012.1月-3月



古澤 巖さん

第116回 しほぐくアンサンブル
猪俣 猛の
映像とお話でつづるジャズの歴史
一月十四日開催
関連事業

■奇稿 猪俣 猛

第117回 しほぐくアンサンブル
ヴァイオリンの魔術師
古澤 巖と
ライツ室内管弦楽団
二月二十五日開催

■奇稿 南出 信二
アピカ名講座
「エクレール」
お菓子放浪記
三月十八日開催

■奇稿 小崎くにと
うかわ先生の
おながく談義

■音楽の話・輪・和・Wa
音楽ホールとクラシック音楽

西協市立音楽ホール

Apika
アピカホール

2月25日(土) アピカホール開館15周年記念事業
第117回しばざくらコンサート・県民芸術劇場

ヴァイオリンの魔術師 古澤 巖とライツ室内管弦楽団

アピカホール、古澤 巖氏との共演によせて

ライツ室内管弦楽団代表 南出 信一

クラシックの演奏家が『ジャンルを超えて!』という言葉をよく使います。

我々ライツ室内管弦楽団も結成以来それを目指してやってきましたが、クラシックのプロだから、ジャズやロックやタンゴやポップスが直ぐに高度なレベルで演奏できるという訳ではありません。昔から古澤氏の演奏には大変興味をもっていましたが、古澤氏の最近のステージやCDを見聞きする度に、その研ぎすまされた完成度に度肝を抜かれます。それはクラシックという音楽の理論書を完璧に自分の体内に完納し、そこにそれぞれのジャンルのエッセンスやノウハウを見事に組み込んだ世界があるのだと思います。ある意味、それぞれのジャンルでやっているプロの演奏家には出せない理論と感性に裏打ちされた芸術性の高い作品になっているような気がします。つまり、いつも普段普通に見えているものに誰しもが想像しない違う角度から光を当ててみて、今まで見たことがなかった輝きを発見したような驚き!。それは古澤氏が素晴

らしい感性をもったクラシックのヴァイオリン奏者であるが故に成立しているのだと思います。

この企画の打ち合わせのために、何度か関西で食事をする機会を作って頂き、ご一緒させて頂きました。古澤氏が語る音楽観や世界観はとてもユニークで、到底われわれが発想できるものではありませんでした。お酒も大変お強くて、鋭い感性と高い技術に強いアルコールをミックスさせた結果、あのようなエキゾチックで力強い演奏が生まれるのではないかと思います。

開館以来長いおつきあいをさせて頂いている西脇のアピカホールでの、今回の古澤氏との共演が、我々ライツ室内管弦楽団のこれからの方向性に大きな舵取りの力を与えてくれるものと信じています。

そんな古澤氏との共演に我々ライツ室内管弦楽団のメンバー一同、心より楽しみにしています。



おっかけ! いこいのひととき

古澤 巖さんのヴァイオリンの音色にはまって、何年になるでしょう。

(ミーハーな言い方ですが、はまる、が一番びったりくるんですね。)

使われている楽器は何? とたずねられても知りませんし、

どんな演奏をするヴァイオリニスト?
ときかかれても、答えるのは難しくて…。

ただただぜひ一度、一緒に聴きましょう、としか言えない音の空間なのです。普段は、会話の言葉も楽器も、耳から音が入り頭が音を聴いているという感じなのですが、

古澤さんのヴァイオリンは、音楽が、メロディが、体の中に流れて入ってくる感覚というのが、一番びったりするのでしょうか?
爽快な、でも、なんとも暖かい気分のよさ、楽しさと幸せな気持ちで心が満たされる演奏をぜひ一度、お聴きになっていただきたいと思います。

メインプログラムは、あまりにも有名なヴィヴァルディの「四季」。
皆様も一度は、「ああ、このメロディ、知ってるよ…」というポピュラーな作品です。
よく聴かれる
「春」の小鳥の歌
「夏」の嵐
「秋」収穫の喜び
「冬」の厳しい寒さ

チェンバロが入らない、古澤氏による編曲の全曲演奏をお聴きください。

春がすぐ間近、風花の舞う2月の午後、ひとときヴァイオリンの音色を楽しまれるのはいかがでしょうか。

神戸 明子

(第117回 しばざくらコンサート実行委員)

1月14日(土)

アピカホール開館15周年記念事業
第116回しばざくらコンサート関連事業

猪俣猛の映像とお話でつづるジャズの歴史

— アメリカが生んだ音楽芸術 “ジャズ” —

ジャズドラマー 猪俣 猛

20世紀の冒頭、北アメリカの南部で、誕生したジャズはニューオーリンズと云われている。この音楽はトランペット奏者、ルイ・アームストロングが立役者と云っても過言では無いでしょう。そこで今回は、ジャズの歴史を映像で綴って皆様にお届けします。

ニューオーリンズで生まれた、デキシーランドスタイルでのルイ・アームストロングバンドからスタートし、1920年代に入り、この音楽に白人達が目を付け、舞台はシカゴに移っていきます。そこでスイングスタイルと云われる、少し洗練されたアンサンブルとダンスミュージックが盛んになってきます。その時代にレコードやラジオ放送局等が出現しジャズ音楽が全米に広がっていきます。その役割

りを果たした人物は、キングオブスイングと云われたベニー・グッドマンです。このスイングジャズを楽しんで頂きます。また、この頃、優れた作曲家が多く誕生しています。代表的な人物としてジョージ・ガーシュインとコール・ポーターが挙げられます。また、ビッグバンドも誕生しデューク・エリントン、カウント・ベーシーと云ったバンドをはじめ、多くの優れたプレイヤーとジャズのスタンダードと云われる名曲もこの時代に数多く生まれたと云って良いでしょう。当時の時代の流れを映像でお送り致します。

どうかジャズの歴史を少しでも理解して頂きジャズ音楽の素晴らしさを楽しんでくだされば幸いです。

2月11日(土・祝)

アピカホール開館15周年記念事業
第116回しばざくらコンサート

「WE3 ジャズライブ」によせて

2月11日に皆様に聴いて頂く、半世紀以上続いているこのトリオは、我が国が誇る前田憲男(ピアノ)を中心とし、ベース荒川康男、ドラムス私、猪俣猛でこれまで日本ジャズ界をリードしてきた音楽家と云えると思っています。少々オーバーかな?? 今回のステージは2部構成で1部では皆様に親しまれているジャズのスタンダードナンバーを中心にプログラムを組んでいます。2部は皆様のステ

ジです。リクエストを頂き、それに答えて、前田憲男が決めて演奏します。どんな曲が飛び出してくるかが楽しみでありまた、荒川と私は戦々恐々です…。

どうかこの点を考慮してリクエストしてくださいね…よろしく!

それでは会場で皆様にお会いできる事を楽しみにしています。

3月18日(日)

アピカホール開館15周年記念事業

アピカ名画座 第3弾 「エクレール・お菓子放浪記」

くに子のおしゃべり名画サロン

シネマエッセイスト&アナウンサー 小崎 くに子

あの日、3月11日。私は、大阪のなにわ筋南堀江にある松竹関西支社で、映画「八日目の蟬」の試写を観ておりました。試写室は細長い松竹ビルの10階にあります。2時45分ごろ、からだ深く沈んでいくかと思うほどの体感を受け、目はスクリーンに釘付けなのですが、何なのだろうと上の空、その間ずっと映像は続いていました。観ていた男性が2人か3人が試写室を慌しく出て行くのが分かりました。隣の人と「地震なのね」と言葉を交したのですが、すぐ映画の後半を見続けました。終了後、松竹宣伝の人から「東北がすごい事になっています」の言葉を聞きましたが、映画のことを考えながら帰宅。家でテレビに映る光景に、ただただ驚くばかりでした。日本がこんなになるなんてー。

それから2カ月ほど過ぎた5月の上旬、東日本大震災で大きな影響を受けた宮城県石巻市をメインロケ地にした映画「エクレール・お菓子放浪記」を、阪神・淡路大震災の経験をもつ関西が、この映画を応援し、上映会をする事で復興のお役に立つことができたとの思いで立ち上りました。

映画「エクレール・お菓子放浪記」の製作準備が始まったのは3年前、宮城県出身の鳥居明夫プロデューサーらが「地方の街に、にぎわいを取り戻すきっかけに」との製作意図により、東北ロケがすすめられました。

昭和を感じさせる建物や街並を求めて、宮城県の石巻市ほかで撮影されました。地元の住民の方々や石巻市長も役者として出演されました。原作は児童文学作家の西村滋の自伝的作品です。出演は、主人公の少年アキオ役をミュージカル「レ・ミゼラブル」などに出演した吉井一肇、いしだあゆみ、林隆三さんたち。監督は、'06年「ふみ子の海」を撮った近藤明男監督です。

話の展開で重要なポイントとなる歌とお菓子。アキオ君が澄みきったボーイソプラノで歌う、西條八十作詞による「お菓子と娘」は心に沁み入る美しい歌、その歌詞になっているエクレールは、シュークリームと姉妹のような、おしゃれなお菓子です。映画を見終わったら、きっと紅茶とエクレールで、映画のこと、東北のことをしゃべりたくなります。



こんな素敵な映画が平成23年に完成しました。さあ、東北からこの映画を発信させ、全国公開のスタートを元気にしよう!と、東京で関係者を招き完成披露の試写会を開催したのが、平成23年3月10日。翌日の3月11日、あの津波が、美しい景観を奪い、尊い多くの命を奪い去ってしまいました。

被災直前の静かで美しい街並が、エキストラとして出演された500名の方々の元気な姿が貴重な映像にあります。

私たちは、明るい希望に向けたこの映画をしっかりと胸に受け止め、一日も早い復興を心から祈っています。

映画は、時には現実を伝え、希望を与え、さまざまな人生を教えてください。

映画って、本当に素晴らしいものですね。

～小崎くに子さんを囲んで～
くに子のおしゃべり名画サロン
3月18日(日) 15:00～15:30
参加無料

映画の半券をご提示ください。
監督&俳優のさまざまな映画にまつわるお話…。
どんな話がとび出すかお楽しみに!



オーストリア音楽の特質 (第1回)

私たちがふだんコンサートやCDなどで一番聴く機会が多い西洋音楽は、1750年頃から1900年頃にかけての約150年間——音楽史では、古典派・ロマン派音楽と名付けられています——に書かれた音楽だといえるでしょう。ところで、ドイツ・オーストリアのロマン派音楽には、傾向の異なる大きな2つの流れがあります。

一つの流れは、交響曲、協奏曲、ソナタ等といった、古典派の伝統的な音楽形式を受け継ぎ、内面性を重視し、絶対音楽を志向する立場で、シューベルトに始まり、シューマンを経て、ブラームスへと、或いは、シューベルトからブルックナーへとつながる系列。

もう一つの流れは、文学や演劇と結びついた音楽、例えば、交響詩やオペラといった曲種に向かい、外面的なモニュメンタルな表現を追求し、標題音楽を志向する立場で、ウェーバーに発し、リストを経て、ワーグナーで頂点に達し、リヒャルト・シュトラウスへと受け継がれていく系列。

ロマン派時代のドイツ・オーストリアの音楽は、一般的には以上のように分類されるのが普通なのですが、視点を少し変えてみると、これとはまた別の分類法も可能となるのではないかと思われるのです。

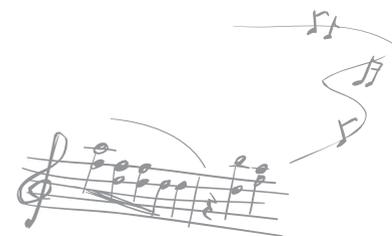
例えば、ハイドン、モーツァルトの流れをくむシューベルト、ブルックナーと続く系譜。それに対して、ベートーヴェンを出発点とし、

シューマン、ブラームスへと、或いはワーグナー、リヒャルト・シュトラウスへと続く系譜。

お分かりのように、前者は、現在のオーストリアに属する、後者は、ドイツに属する作曲家たちです。私たち日本人は、同じゲルマン民族の音楽だからという理由で、ドイツ音楽とオーストリア音楽をひっくるめて〈ドイツ・オーストリア音楽〉と総称するのが常としてしています。しかしながら、同じラテン系の民族とはいえ、イタリアとフランスとでは、気質も音楽も相当異なるように、ゲルマン民族といっても、大ざっぱに見ても、北・中部と南部とでは、風土や気質や文化の面において、相当異なるところがありますし、ましてや、長らくハプスブルク帝国の帝都であった国際都市ウィーンを首都にいただくオーストリアには、他とは際立って異なる特色が見出されるように思われるのです。

オーストリア音楽とドイツ音楽は、似て非なるものである——私は常々このように感じてきたのですが、このことをハッキリさせる機会がなかなか持てずモヤモヤしていたのです。ところが、かなり以前になりますが、そのような機会にうまく恵まれ、その折に色々と調べて論文にまとめることができました(註)。

ただ、このテーマについては、日本人には分りにくい点多々あるため、一度、本場の



オーストリアの音楽家たちによって、私の考えが大筋で間違っていないかどうか確かめておく必要があると感じていたのですが、幸い、これまでそのような機会に数多く恵まれてきました。アピカホールでヴァイオリン・リサイタルを開いてくださったウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席コンサートマスターのライナー・キュッヒルさん。ウィーン・オペレッタの公演でアピカホールへ来られたバリトンのヴォルフガング・ドッシュさん。第1回のウィーン・ピアノ四重奏団の演奏会に先立って、アピカホールで行われたプレイベントで講演されたヴォルフガング・ヘルベルトさん(ウィーン大学哲学博士、徳島大学外国人教師)。また、〈丹波の森国際音楽祭——シューベルトティアードたんば——〉に出演されていた大作曲家シューベルトの祖父の子孫であるトーマス・シューベルトさん(作

曲家・指揮者・リート伴奏者)などなど。

幸い、これらの方々には、例外なく私の考えに賛意を表してくださいましたので、私の考えも、それほど独りよがりでも見当はずれでもないのではないかと……と思っている次第です。論文そのままの形では堅苦しいので、柔らかくいただいた表現にしながら、民族的な面、気質的な面、宗教的な面、そして音楽それ自体の考察を通して、オーストリア音楽の特質を浮かびあがらせていくことができれば……と思っています。

(註) 鵜川 真

「ロマン派音楽と民族
——オーストリア音楽の特質について——」
(がくふの会編『音が織りなすパフォー
マンの世界』昭和堂刊 所収)

元同志社大学文学部講師(音楽学) 鵜川 真

西脇ロイヤルホテル

 Daiwa House Group®

兵庫県西脇市西脇 991 番地 〒677-0015
Tel 0795-23-2000 Fax 0795-23-8604

織乃里

【昼】11:30～
オーダーストップ13:30
【夜】17:30～
オーダーストップ21:00

和食処 織乃里

ラフィネ

RAFFINE

【昼】11:30～15:00
(最終入店14:00)
【夜】17:30～21:00
(最終入店20:00)

レストラン ラフィネ



12月11日(日) アピカホール開館15周年記念事業
「15周年記念コンサート」

出演者・ボランティア全員で作上げたコンサートに
 出演された皆さんのメッセージです。

水谷 やよい (声楽)

幼い日、初めてのピアノ発表会でのワクワクドキドキした思い出・瞬く間に過ぎていった学生生活に思いを馳せて歌った卒業演奏会のステージ・新米教師として初めて教え子達と立った舞台、生徒以上に緊張して指揮をする手が震えていたあの日…思えばいつも身近に音楽がありました。そして音楽を通してたくさんの素敵な出会いがあり、音楽から多くのことを学んできたように思います。この度アピカホール開館15周年記念コンサートでの素晴らしい演奏の機会を頂き、また一つ素敵な思い出が増えました。ご指導いただいた先生方、様々な面から支えてくださった方々への感謝の気持ちと共に、いつまでも大切な思い出になることと思います。ありがとうございました。

藤井 太洋 (高2・コントラバス)

西脇の一市民として、このような会に参加でき、また、地域に貢献できたことをとても嬉しく思っています。裏方さんがいたからこそできた会であり、聴きにきて下さったお客さんがいたからこそできたこの会は、このハイテクな時代に人と人との繋がりを改めて確認できたものでした。このコンサートで一番印象に残った点は、この記念コンサートを成功させようという裏方さんの思いと綿密な打ち合わせをされる姿です。人はある目標に皆で向かうことが一番美しいんだなあと、会を終えた今でもしみじみと思います。貴重な体験をありがとうございました。

藤井 ひろみ (混声合唱団)

最後まで百合花先生のご指導についていくのが精一杯の私でしたが、コンサートでは百パーセント楽しく歌えました。ひとえに先生方とスタッフの皆様のお蔭と感謝しております。ありがとうございました。そして、私と声を合わせてくださった合唱団の皆様、練習の時も、本番でも、隣から後ろから、皆様の声が私の支えでした。「パートの方たちと声を合わせ、違うパートとハーモニーを生み出す」そんな楽しさを初めて知りました。ありがとうございました。また一緒に歌える日があれば嬉しいです。

笹倉 明歌音 (小6・児童合唱団)

私はコンサートをやって、すごくいい経験になったと思いました。ゆりか先生やほかの人にもとてもお世話になって、感謝してもしきれないぐらいです。

本番当日も、百パーセントの力をだしきって一生けん命歌えました。

いろんな人にめいわくをかけてしまったかもしれないけど、友達やスタッフのみなさんにもとてもよくお世話になりました。本番はそのお礼のつもりで歌いました。

最初はいった時は、ワクワクとドキドキがまじりあっていたけど、だんだん上手になると、合唱が楽しみになりました。

とてもいい合唱ができたと思います。



児童合唱



アンコール風景

ヤマハ この春がはじめてキッ!
春の無料体験教室
予約受付中
音楽 英語 0歳児から大人まで
 お問い合わせ
ヤマハ特約店 (株)北条楽器
 加西市北条町横尾183-5 ☎0790-42-0697

総合建設業 一級建築士事務所
 国土交通大臣認定鋼構造物製作工場
 あんしん住宅瑕疵保険届出事業者
 WAIKI CONSTRUCTION CO.,LTD.
和以昔建設 株式会社
 ☎677-0018 西脇市富田町36
 電話 0795-22-5651(代)

KOBE
STYLE
 Kitchen & Reform
 www.kobe-style.co.jp
 〒658-0032
 神戸市東灘区向洋町中6-9 TEL:078-857-8424
 神戸ファッションマート10F FAX:078-857-8425

CASUAL CAFE
MERCI
 カジュアルカフェ **メルシー**
 西脇市和田町53 エルソル1F
 TEL/FAX (0795) 23-0125

音楽の 話・輪・和・Wa

音楽ホールとクラシック音楽

しばとくらコンサートが、二月二十五日に行われる「ヴァイオリンの魔術師古澤巖とライツ室内管弦楽団」の演奏会で百十七回目になるようです。発足については当時未だ市役所が現在の図書館の場所であり、その前に木造二階建ての昔の校舎のような市民センターがあって、そこで音楽愛好者数人をお願いし相談したことを思い出します。

西脇市文化連盟としてはその後、西脇ですぐくらす等の協力を得ながら主に西脇市民会館ホールで開催して来ましたが

が十五年前西脇市立音楽ホールが出来て引き継ぎ今日に至っております。

御承知の通り西脇市立音楽ホールは小ホールながら素晴らしいホールです。設計の段階から相談を受けましたので連盟としては音楽の専門家二名をお願いし各地の小ホールを見学して廻り検討したことを思い出しております。そしてピアノの選定にも関わり世界最高のスタンウェイが備えられたことでホールが更に充実したものになり、これまで数々の一流音楽家による演奏会が行われたことも周知の通りです。

さてクラシック音楽を大別しますと、バロック、古典派、ロマン派、民族主義、世紀末と続いておりますが、クラシックの

愛好者はほぼこの分野を楽しんでおられるように思います。特にモーツァルト、ベートーベン、古典派でありシューベルト、ショパン、シューマン等はロマン派です。チャイコフスキー、ヴェルディ、ワグナー等は民族主義になります。それにしてもクラシック音楽は人類のもつ最高の財産ではないかと思えます。

私も十代の後半より有能な音楽好きの先輩、友人に恵まれておりましたのでクラシック音楽に接することが出来ました。発足後五十年を経て現在も続いている西脇ですぐくらすを通じてこれからも生涯クラシック音楽を楽しみたいと思っております。

(西脇市文化連盟会長)

APiKa クイズに答えてコンサートに行こう!

1678年ベネチアに生まれ、カトリック司祭としても知られたヴィヴァルディはヴァイオリンの名手でもありました。500を超える協奏曲をはじめ、多くの作品を残しています。さて、ヴィヴァルディと同じイタリアで活躍した作曲家は、次のうちだれでしょう?

- ① “春の海”を作曲した「宮城道雄」
- ② “春の祭典”を作曲した「ストラヴィンスキー」
- ③ “蝶々夫人”を作曲した「プッチーニ」

♪正解者の中から、「古澤巖とライツ室内管弦楽団」のチケットを2名様にプレゼントいたします。

♪応募方法：ハガキ・FAX・Eメールにて、クイズの答え(番号)、住所、氏名、年齢、電話番号、ご感想を明記の上、アピカホール クイズ係宛1月31日(火)までにご応募ください。

当選者は発送をもって発表にかえさせていただきます。

(Vol.62の答え③)

編集後記

あけましておめでとうございます

この字は「立」「月」「巨」の合字です。「月」は、月ではなく肉であって、巨は肉が飛びはねている形で、この二つで龍が躍動している姿を現わしています。「春分」に天に登り「秋分」にして淵に潜むと書物に出ています。

気分がすぐれない時に、元気の出る音楽が聴きたくなくなることがありませんか? そんな時は、好きなアーティストの歌でも、アニメや映画の主題歌でも、クラシック音楽でもなんでもよいから、自分が元気になる音楽を見つけよう、と、元気が湧いてきます。

ドライブする時に、お気に入りのアルバムをかけたら…目的地もあつという間に目的地に到着してしまった経験があると思います。

今日は、JAZZトポップス、クラシック映画音楽♪…等々、音楽っていいね。

(Green)

出演者募集

第22回 「アピカ・フレッシュコンサート」

アピカホールは、地元出身者で音楽系大学を卒業するみなさんの今後の活躍を期待し、支援します。

コンサート日：4月22日(日) 午後3時開演(予定)

対象：北播磨地域(西脇市、加東市、小野市、加西市、三木市、多可郡)出身で、平成24年3月末に音楽系大学又は学科(短期大学を含む全てのコース)を卒業予定の方。

参加費：入場券30枚程度の負担があります。(前売券 1,000円)

申込締切：1月30日(月)<必着>

詳しくはアピカホールまでお問い合わせください。TEL(0795)23-9000

第16回 「リトルピアニストの大きなコンサート」

ピアニストとして出演してみませんか?

コンサート日：8月25日(土)

開演時間・出演等の詳細は、申込締切後決定します。

対象：西脇市内在住又は市内でピアノを習っている幼児(4歳)から高校生まで。(平成24年4月現在)

参加費：無料

申込締切：3月12日(月)<必着>

説明会：4月14日(土)午前10時30分から

西脇市 岡之山美術館

TEL.0795-23-6223

第55回企画展 「横尾忠則 原景 意識の眼」

3月25日(日)まで

アトリエシリーズ

アトリエ個展シリーズ

- VOL.2 ●1月4日(水)~21日(土) 長谷川 肇展(陶芸)
- VOL.3 ●1月22日(日)~2月11日(土) 増田 美知子展(絵画)
- VOL.4 ●2月12日(日)~3月3日(土) 内藤 絹子展(絵画)
- VOL.5 ●3月4日(日)~24日(土) 高田 日出子展(絵画)

アトリエシリーズは無料

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>

ホームページに掲載していますので是非ご覧ください。ブログ「美術館日記」も訪問ください。

開館時間 午前10時~午後5時(入館4時30分まで)

入館料 大人310円(260円) 高大生210円(160円)
小・中学生110円(80円) ()内20名以上団体割引料金

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日

小さなまちの小さな美術館

第9回 全国公募 **西脇市サムホール大賞展**

公募締切 2012年8月1日(水)

小さなまちの小さな美術館が、小さくともキラリと光るサムホールサイズの作品を募集します。

この大賞展はビエンナーレ方式として、今年で9回目を迎えます。ぜひあなたも参加いただきますようお願いいたします。

展覧会会期/2012年10月14日(日)~11月11日(日)

表彰式/2012年11月11日(日)午後1時30分から

応募資格 2012年8月1日現在で、16歳以上の方。プロ、アマ、国籍は問いません。

応募作品 作品の大きさはサムホール(縦、横22.7cm×15.8cm)高さ10cm

審査員 建島 哲(京都市立芸術大学長・美術評論家) 横尾忠則(美術家) 来住しげ樹(西脇市岡之山美術館館長・美術家) (敬称略)

休館日：毎週水曜日(祝日の場合翌日)

月/日(曜日)	催物内容	時間	入場料等	主催・問合せ	特集記事
1/8(日)	平成24年西脇市成人式	11:00～	関係者	西脇市教育委員会 青少年センター ☎0795-22-4000	
1/14(土)	アピカホール開館15周年記念事業 第116回しばざくらコンサート「WE3 ジャズライブ」関連事業 ①猪俣 猛のドラムクリニック ②猪俣 猛の映像とお話でつづるジャズの歴史	①11:00～ ②14:00～	各500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P4
1/15(日)	コーラスの集い	13:30～	関係者	垣内順一 ☎0790-42-2948	
1/22(日)	アピカホール開館15周年記念事業 第14回「アピカ・アンサンブルコンサート」	13:30～	無料	アピカホール ☎0795-23-9000	
2/5(日)	ピアノ・エレクトーン発表会	10:30～	関係者	楳北条楽器 ☎0790-42-0697	
2/11(土・祝)	アピカホール開館15周年記念事業 第116回しばざくらコンサート「WE3 ジャズライブ」 前田憲男(p) 猪俣 猛(ds) 荒川康男(b)	14:00～	一般 3,500円 高校生以下 2,000円	アピカホール ☎0795-23-9000	P4
2/12(日)	ピアノ・エレクトーン発表会	10:30～	関係者	楳北条楽器 ☎0790-42-0697	
2/25(土)	アピカホール開館15周年記念事業 第117回しばざくらコンサート・県民芸術劇場 「ヴァイオリンの魔術師 古澤 巖と ライツ室内管弦楽団」	14:00～	一般 3,000円 高校生以下 1,500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P2-3
3/4(日)	ピアノ・エレクトーン発表会	13:00～	関係者	楳北条楽器 ☎0790-42-0697	
3/11(日)	くすのき リトルピアノコンサート	13:00～	関係者	楠 宮子 ☎0795-48-9332	
3/18(日)	アピカホール開館15周年記念事業 アピカ名画座「エクレール・お菓子放浪記」 ～小崎くに子さんを困んで～ くに子のおしゃべり名画サロン	①13:00～ ②15:45～ 15:00～15:30	一般 1,000円 (当日券 1,500円) 高校生以下 800円	アピカホール ☎0795-23-9000	P5
3/25(日)	2012春のカルチャーフェスティバル 西脇市民音楽祭(合唱とバル演奏の部)	13:00～	500円 (駐車料金別途)	西脇市教育委員会 生涯学習課 ☎0795-22-5996	
4/8(日)	ミニミニコンサート	13:30～	関係者	杉本千穂 ☎0795-32-3121	
4/14(土)	東経135度 北緯35度 × Eckoto Super Stars Live 2012 ～兵庫県 箏プレコンサート～	18:30～	一般 2,500円 各種会員 2,000円	エコトモ兵庫 ☎090-5966-5538	
4/22(日)	第22回「アピカ・フレッシュコンサート」	15:00～ (予定)	前売券 1,000円 (当日券 1,500円)	アピカホール ☎0795-23-9000	P11

★主催者の都合により変更になる場合があります。内容についてのご質問は、各主催者までお問い合わせください。

★アピカホール主催の有料コンサートにご来場のお客様に限り、アピカ地下駐車場の3時間無料駐車サービス券をお渡しします。

■編集：ポナンタゴン編集委員会
■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」
・停電のため休館日変更のお知らせ
2/27(月)休館・2/29(水)開館

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991
TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031
http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/
E-mail: apikahall@ever.ocn.ne.jp
メールアドレスが変わりました。

このガイドは2011年12月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。